

K. A. 社会システム学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校時代に悔いがあったこともあり、目標を持って勉強することで大学生生活を充実させたいという思いがありました。実家暮らしだったので、留学することが親離れのきっかけになるかなあとも思っていました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

入学したての頃から留学したいとは漠然と思っていたので、1 回生の春に資格講座の TOEFL 講座を受けました。2 回生の夏に参加した TOEFL Camp では留学仲間ができてとても刺激を受けたし、価値があったと思います。CASE で学んだエッセイの書き方もいろんな場面で役立ちました。TOEFL は 1 回生の冬くらいから合計 7 回受けました。留学生の中でも多い方だったと思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間（語学勉強、ビザ申請手続きなど）

留学という実感もあまりなく CASE 以外では英語の勉強はしていなかった気がします。予防注射は扱っている病院が近くになく、奈良から大阪に通っていました。お金もかかったし、3 ヶ月で 10 本以上打ったのできつかったです。できるなら、留学が決まった段階ですぐに予防接種のリストをもらうべきです。

④ 現地到着後

語学研修はボストンの ELS（ニュートン）で受けました。夜中に到着したのですが、空港出迎えの係の人が見つからず電話もつながらず焦りました。なんとかインフォメーションセンターの人に頼んで電話をしてもらったら、怪しげなドレッドの人とごついドライバーが来て、ヒヤヒヤしました。次の日はクラス分けのテストと軽い面接がありました。

SBC の最寄りのリンチバーグ空港へ行くには必ずシャーロットで乗り換えます。リンチバーグ空港は搭乗口が一つしかない小さな空港です。飛行機が 2 時間以上遅れてしまい、リンチバーグには夜中の 12 時に到着しました。タクシーに乗って空港から学校まで行く間、街灯も家も何もなくて、これまたヒヤヒヤしましたが無事に着きました。留学生用のオリエンテーション期間は学校の敷地内にあるホテルに滞在し、ID を作ったり、諸手続きをしたり、日用品を買いにいったりしました。

⑤ 語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

ELS ボストン・ニュートン校は Mount Ida 大学の中にあり、（どこの語学学校でも同じようなものだと思いますが）日本人・韓国人・中国人・サウジアラビア人が特に多かったです。最初の頃は授業も難しく、友達も全然できなくて辛かったので、まずは同じクラスの

日本人と仲良くして、そこから友達を増やしていきました。2セッション目は要領もわかってきて、勉強よりは友達と遊んだりしてボストンでの生活を楽しめるようになりました。

◆授業内容、課題、試験

語学学校ではボキャブラリー、イディオムを使って広告のキャッチコピーを作る授業が共同作業もあってよかったです。課題もあまり多くなかったと記憶しています。ただ、スピーキングに関してはスピーチが1回くらいしかなく、私が求めていたのとは違いました。

⑥ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

京田辺キャンパスと比べるともちろん劣りますが、施設が古い汚いということはないです。学校の敷地内に湖があったり、森があったり、広い野原があったりと良く言えば自然がいっぱいの環境です。悪く言うと何もなさすぎてネット依存になってしまいます。だめですが。

◆履修科目

英語に不安があったので、留学生担当の方と相談して受講する科目を決めました。博物館学芸員の資格を取りたいとっていて、100番台のアートマネジメントの授業を受けたいと思ったのですが、出席してみて、4単位だし私には難しいと感じたので泣く泣くやめました。私は京都学・観光学コースなのですが、それに合う科目がなかなかなくて、基本的には自分の興味と、あまり負担が多くない授業を取りました。結果的には良い選択だったと思います。

・ Photography 1

フィルムカメラを使う授業です。デジカメと携帯のカメラしか使ったことがありませんでしたが、本体の扱い方から薬品の扱い方、暗室の中での作業まで、基本を学べたので面白かったです。専門用語は難しかったものの、作業中心の授業ですし、英語が不安だった私にとって精神的に居場所がある授業でした。ただ、予備知識が全くなかったので慣れるまではネットで日本語のサイトを見てノートを作ったりしていました。2週間に1回の課題と作品の批評、期末は最終課題と記述のテストがありました。

・ Survey of Art History 2

中世から現代までの美術を学ぶ授業です。現代アートに興味があったので取ってみました。美術史を学ぶのは初めてでしたが、欧米目線での作品の見方がわかり、新鮮でした。中間には500語のエッセイ2つと授業内に軽いテスト、5枚程度の作品分析のペーパー提出が1回、期末には750語のエッセイが2つとテスト、という感じでした。美術の批評や分析には独特の書き方があり、美術史専攻の友達に手伝ってもらって仕上げました。教科書を揃えるのにかなりお金がかかりました。

・ Public Speaking

スピーチの授業です。留学生担当の方がすごく勧めてきて、本当は人前で話すのは大嫌いですけど思い切って取りました。説明・紹介・説得・反論などいろいろなスピーチをします。ネイティブの前でスピーチを披露するのはプレッシャーと緊張感がありましたが、教授が親切だったことに救われました。原稿をチェックしてもらい何度も書き直したり、話す練習をしたりしたことで英語が伸びたと思います。思ったより成績は悪くありませんでした。

・ **Production and Performance**

学内で行われる劇のセットを組み立てたり、ペンキを塗ったりと作業中心の授業です。教科書も課題もないし、2ヶ月で52時間働きさえすれば単位がもらえます。先生は気さくで、留学生の扱いにも慣れていました。

・ **Hiking in the Blue Ridge**

ハイキングの授業です。車で30分くらい行ったところの山を歩きました。これも課題がないし、歩くだけなので気楽な授業でした。先生も親切でした。友達作りにおすすめです。半期だけでした。

・ **Intro to Racquet Sports**

ラケットボール、スクワッシュ、バドミントン、卓球をやりました。半期だけでした。

◆ **授業、レポート、定期試験**

SBCでは留学生用の授業はなく、ほぼすべての授業で留学生が自分一人という状況です。ひとクラスの定員も15人程度で少ないです。レポートは友達に文法をチェックしてもらっていました。ライティングセンターに通っていた時期もありましたが、人によっては見方が雑だったりしたので、決まった友達に毎回見てもらった方が自分の文章の傾向も知ってもらえるし、親身になって見てもらったのでよかったです。筆記試験も結果的になんとか乗り切れましたが、いざテスト用紙を目の前にすると、言葉遣いが適切なのかどうか心配になったりしていました。エッセイの書き方は知っていましたが、テストでの文章の書き方、言葉の使い方なども意識して勉強すればよかったですと思います。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

クラブ活動はしていませんでした。

⑧ **現地での住まい**

ボストンではホームステイでした。ホストマザーはあまり世話を焼いてくれるタイプではなくて、放任という感じでした。私もあまり家におらず、週末も一日中遊びに出ていることが多かったのが気は楽でした。ホストマザーはベジタリアンだったので、食事はサラダと豆腐とネギの炒め物など、ヘルシーなものでした。家から駅までは平日はバスがあるのですが、週末にはないので40分かけて歩いていました。

SBCでは寮に住みます。ルームメイトは中国人の4回生でした。最初は一人になれる時間がないのが不安でしたが、意外とストレスなく過ごせました。食堂(プロソロ)での食事は

最初の頃はおいしいと感じていたのですが、途中からは、まずさに耐えられなくなってきて、日本から送ってもらったカップラーメンやご飯を食べていました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

夏は、家族が入院するという事で語学研修の期間を短くして、3週間ほど日本に帰りました。サンクスギビングは10日間寮が閉まってしまうので旅行しました。ボストン、ロサンゼルス、ラスベガス、グランドキャニオンに行きました。グランドキャニオンはラスベガスから車で片道5時間くらいかかりますが、夕日も見られて友達と一緒にすごく感動しました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

何もしていません。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ボストンに着いて1週間で、まだ英語もまったく聞き取れない、土地勘もない、バス・電車の乗り方もわからない状態で、一人でニューヨークに行こうと決意しました。今思えば向こう見ずですが、前日の夜に決めてネットでバスの予約をしました。タイムズスクエアで無事に友達に会えたときには何とも言えない達成感がありました。

あとは、SBCでのアメリカ人の友達に人生で初めてのバーに連れて行ってもらったことも楽しかった思い出の一つです。金曜の夜に3時間かけてリッチモンドに行き、お酒を飲んで音楽を聴いて、朝の5時に学校に帰ってくるというようなこともしていました。日本では実家暮らしで平凡な人生を送ってきたので、とても刺激的で新鮮でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

語学学校で最初の日に、先生や他の学生が話していることが全然わからなくて、帰り道に号泣したのを覚えています。今までCASEの授業でもネイティブの先生が言っていることはわかったし、英語の授業についていけないということがなかったのに油断していたら痛い目に遭いました。自分では英語の成績はいいと思っていたのですが、環境が変わって自分の甘さを痛感しました。

また、SBCに入っても1、2ヶ月は周りがなぜ笑っているのか、何を話しかけられているのか、推測もできなくて本当に辛い思いをしました。10年以上英語を勉強しているのに言いたいことも言えない、会話にもついていけない状況は屈辱的でした。言葉が不自由なのはこんなにつらいものかと思いました。今でも聞き逃すことや理解できないことばかりですが、できない自分を受け入れて、簡単なことでも尋ねて教えてもらうという謙虚な姿勢は身に付いたと思います。たとえ言葉が拙くても、相手に誠意が伝わるのが大切だと感じています。というか、それしか生きていく術がないのでそうするしかないのですが…。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

日本人は緊張するとだまってしまうことが多いですが、アメリカでは逆です。初対面で名前を知らない相手とでも、昔から親しい友達のように話しまくっていて圧倒されます。緊張する状況ほど口が止まらなくなるようです。あと、アメリカでよいのは、他人が自分のことをどう思っているかということに気にしすぎないというか、人間関係にじめっとしたものがあんまりないことです。日本ではたとえ無意識でも、裏の裏を読み、常に相手の考えていることを気にして縮こまっていたんだなあと改めて気づきました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

SBCは良くも悪くも日本人留学生が少ないです。周りの友達にはとてもいい環境だねと言われるのですが、英語だと辛いときなどに自分の気持ちをうまく伝えられないので、言葉にできないくらいの孤独や不安がありました。

あとは、フレンドシップファミリーをつけてもらえるのがよかったです。私の場合は25歳の4回生の人で、課題を手伝ってくれたりいろんな語句や言い回しを自分の言葉で説明してくれて、本当に優しくていい人と出会えました。彼女には車で様々な場所に連れて行ってもらって、新しいことをたくさん教えてもらったのでとても感謝しています。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコン、iPhone 必須です。（アメリカに行ってもまずすることは、Wi-Fiを探すことです。）パソコンはできるだけ薄いものを。洋服、化粧水、メイク道具、シャンプーは自分の気に入ったものを持っていった方がいいかもしれません。あとは、緑茶、インスタントのみそ汁やスープ、お湯を注ぐタイプの乾燥ご飯や、鰹節、ごま、塩昆布、梅肉、粉末だしは持って行ってよかったです（アメリカでの食事は続くと気が滅入ってくるので）。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング、スピーキングに関しては留学前とは全然違うと思います。SBCについての当初は早口すぎてひと言も聞き取れなかった双子の会話が、少しわかるようになったときはリスニング力が上がったと実感できました。毎日ネイティブ同士の会話を聞いていると「その単語、その場面で使うんや！」という発見があります。留学前には知らなかった言葉を使って話せるようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は人見知りや引込み思案だし、冒険もあまりしないので、自分で言うのもなんですがあまり留学向きの性格ではないと思います。でも、思い切ってアメリカに飛び出して本当によかったと心から感じています。留学することで年齢・国を問わず様々な考えや悩みを持った、尊敬できる人たちにたくさん出会えました。アウェーな環境で辛いことが多かつ

たですが、自分の中のいろんな感情に気づいたし、度胸がついて一人でできることも増えました。同女での生活も充実していましたが、あのままでいたらなんとなく平凡に大学生生活が終わってしまっていたと思います。

今留学しようか迷っている人、この体験記を読んでいる人は、とりあえず国際交流センターに行って話を聞いてみてください。そしたら先輩のメールアドレスも教えてもらえるし、相談すればきっとアツい返事をくれると思います！少なくとも私は全力で相談にのります！（留学前でも留学中でもぜひ）そしてすぐに TOEFL を受けてほしいと思います。迷っていたら点数が足りなくて手遅れになってしまいます！（実際に間に合わなかった友達もいます）やればできます。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

1 セメスター留学を延長するので同女は1年休学します。就活時期もずれます。特に具体的な目標はありませんが、親が私に期待して投資してくれたからこそ留学が実現したので、ちゃんと就職してその期待に応えたいと思います。



ハイキングのクラスで撮った写真です♪

A. M. 現代こども学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

国際理解教育に興味があったからです。様々な人に出会い、多種多様な文化や価値観を知りたいと思いました。昔から漠然と、いつか留学したいと考えていましたが、本格的に協定留学を目指そうと決心したのは大学2年生になったときです。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

ほぼ毎日、京田辺キャンパスにある ESSR に通い、TOEFL 専用の問題集に取り組みました。ESSR では豊富な種類の問題集が無料で使用できるので、おすすめです。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後は、ほとんど毎日掛け持ちでアルバイトに励みました。そのため、前より勉学に時間を割くことができませんでしたが、苦手だったリスニングはできるだけ毎日取り組むように心がけました。ビザの申請は早めに始めました。書類さえ揃っていれば問題ないので、あまり心配する必要はないと思います。

④ 現地到着後

アメリカには、語学学校が始まる2日前に到着しました。入国審査で予想以上に時間がかかってしまい、乗換の飛行機に遅れそうになりました。空港までは、ホストファミリーが迎えに来てくれました。

⑤ 語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

University of Pittsburgh の付属の語学学校である English Language Institute で約3ヶ月間英語を学びました。建物は綺麗で快適でしたし、無料で Wi-Fi が使えたので便利でした。学校の周りは様々なレストランがあったり、図書館があったりと栄えており、治安も良かったです。

◆授業内容、課題、試験

授業は50分間で、毎日文法、リーディング、スピーキング、リスニング、ライティングの授業がありました。課題はあまり多くなかったため、自分の時間を多く持つことができました。試験は中間と期末がありました。しっかり授業に出ていれば、難しいものではないです。

⑥ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

大学の施設は綺麗で、それなりにきちんと整備されています。パソコンは24時間いつでも使えます。キャンパスはとても広く自然があふれており、丘や湖があります。ただ、もの

すごく田舎のため大学の周りには何もなく、生活必需品ですら車がないと買いに行けません。

◆履修科目

・ ANTH112 Cultural Anthropology

文化人類学の導入の授業です。毎回違うテーマ（宗教、食文化、人種など）を扱いました。

・ ANTH221 Culture, Society, and Individual

昔の人類学者や哲学者たちが、文化や社会、人間の本質をどのように考えていたのか学ぶ授業です。リーディングの量がとても多かった上に、内容が抽象的で難しかったです。ですが、教授や他の学生たちがサポートして下さり、何とか乗り越えることができました。

・ THTR102 Public Speaking

様々なスピーチの種類を学びました。教授がとても優しい方で、上手く話せなくても優しく見守って下さいました。

他には、体育や音楽の授業をとりました。

◆授業、レポート、定期試験

・ ANTH112 は本来テスト 2 回とレポート 1 回により評価されますが、教授が免除して下さいました。その代わりに、毎週 1 ページほどのレポートを書いて提出していました。

・ ANTH221 は、4,5 ページのレポートが 4 回と、期末テストで評価されました。テーマがとても難しく、苦勞しました。

・ THTR102 では、6 回のスピーチと期末テストがありました。スピーチは毎回とても緊張しましたが、その分度胸がつかえました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

SBC ではフィルムクラブに入りましたが、活動はほとんどありませんでした。他には、Randolph College にある LIFE クラブのイベントにたまに参加していました。LIFE クラブでは、たくさん留学生たちと交流することができます。

⑧ 現地での住まい

語学研修期間は、当初ホームステイをしていました。しかし、家から学校までの交通機関が発達しておらずとても不便で、授業が始まる 2 時間前には家を出なければなりません。そのため、途中で寮に引っ越しました。寮から学校までは徒歩 5 分ほどでしたが、キッチンがついておらず、食事の面では不便でした。

SBC では寮に住んでいました。はじめはアメリカ人の子とルームシェアしていましたが、彼女の不潔さにどうしても耐えられず、途中で部屋を替えてもらいました。部屋は相談すればすぐに替えてもらえるので、合わないと思えばすぐに相談した方が良いと思います。食事は毎食学食で食べていました。あまり美味しくないです。

⑨ 長期休暇の過ごし方

旅行に出かけました。自分で飛行機やホテルを予約したり、計画を立てたりするには時間がかかりますが、とても楽しくいい経験になりました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

何もしていません。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ANTH221 で同じクラスだったイラク人の子と、毎日のように会って一緒に授業の復習をしたり、お互いの文化や習慣についてお喋りしたりしたことです。この留学を通して様々な文化的背景を持つ人々に出会い、視野が広がりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

語学学校でのスピーキングの授業と、SBC での ANTH221 です。語学学校では、周りの学生たちは自己流の英語ですがペラペラ話すので、ついていけず、とても悩みました。ANTH221 は、リーディングの量が週に 200 ページを超えることもざらにあり、最初の頃は半泣きになりながら読んでいました。しかし、だんだん要領をつかんで、上手くこなせるようになりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

親切な人が多いことです。重い荷物を持っていると手伝ってくれたり、ドアを開けて待っていてくれたりします。しかし、多くの人が大雑把です。土足の場所で食べ物を落としたのに、それを拾って平気で食べているところを見たときは驚きました。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、小規模な大学なので、教授の目が一人一人に行き届いていることです。特に私は留学生ということで、多くの教授がいつも気にかけて下さいました。立地が田舎なので、勉強するにもとても良い環境です。

悪かった点は、田舎すぎて気軽に出かけられないことです。学生だけでなく教授たちもキャンパス内に住んでおり、どこへ行っても完全に一人になることができず、気分転換が難しいと感じることがありました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

ラップトップは必需品です。出発前に、しっかりウイルス対策をしておいた方が良いです。私のラップトップは途中でウイルスに感染して再起不能になってしまい、すごく困りました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力に関しては、リスニング力がとても向上しました。しかし、この留学を通して得た成果は語学力よりも、自分自身の成長にあったと感じています。異国の地での留学生生活を無事に終えることができ、少しだけ自分に自信が持てるようになりました。しかし、それと同時に家族や友人など、周りの人たちの大切さを改めて実感することができました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

つらい思いをしたこともありましたが、自分から行動すれば必ず誰かが助けてくれますし、得られるものも多いので、興味があるならぜひチャレンジしてください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

まだ明確には決めていませんが、留学を通して身につけた度胸や行動力を活かしていきたいです。

